

# nmsホールディングス 2024年3月期 決算説明会

2024年5月28日

nmsホールディングス株式会社

(東証スタンダード 2162)

Piece of Innovation.

**nms**  
Holdings

**代表取締役社長 小野 文明**

**常務取締役 コーポレート本部長  
河野 寿子**

# nms ホールディングス株式会社

## 2024年3月期 決算概要

- 欧米の金融引き締め政策による景気停滞や、最終需要減少によるお客様の減産等の影響があったものの国内およびASEANにおける需要は底堅く、全体として堅調に推移
- お客様の減産等による影響もあり売上が減少したものの、これまで実行してきた事業構造改革の効果定着や生産性改善、これに伴う固定費の削減等、基盤強化策も寄与し、営業利益が増加、経常利益も業績予想数値（2023年10月30日公表）を超過
- サプライチェーンをはじめとする市場構造が変化しており、今後も不透明な事業環境が続く様相だが、景況変化においても、確実に利益をだせる体質に転換を図っており、次期も基盤強化策を進めるとともに、今後の事業成長を生み出す戦略投資の見極めを行いながら、次の成長につながる施策を実行していく

| (単位：百万円)            | 2023年3月期<br>実績 | 2024年3月期 実績 |        |        |        |        | 累計   | 備考 |
|---------------------|----------------|-------------|--------|--------|--------|--------|--|----|
|                     |                | 第1四半期       | 第2四半期  | 第3四半期  | 第4四半期  |        |  |    |
| 売上高                 | 79,033         | 18,565      | 17,709 | 18,407 | 18,191 | 72,874 |  |    |
| 営業利益                | 1,537          | 483         | 14     | 610    | 779    | 1,888  | 【営業外損益】<br>営業外収益 634百万<br>(前年同期比 176百万円増)<br>営業外費用 952百万円<br>(前年同期比 383百万円増) |    |
| 経常利益                | 1,426          | 698         | 191    | 269    | 411    | 1,570  |  |    |
| 親会社株主に帰属する<br>当期純利益 | 505            | 496         | 63     | 216    | △39    | 737    | 【特別損益】<br>特別利益 1百万円<br>特別損失 45百万円  |    |
| 1株当たり<br>当期純利益 (円)  | 32.52          | 31.93       | 4.10   | 13.95  | △2.56  | 47.42  |  |    |
| EBITDA              | 2,980          | 842         | 386    | 949    | 1,132  | 3,311  |  |    |

# ■ セグメント別業績ハイライト

| (単位：百万円) |         | 2023年<br>3月期<br>実績 | 2024年3月期 実績 |        |        |        |        |        | 前年同期比   | 主なポイント |
|----------|---------|--------------------|-------------|--------|--------|--------|--------|--------|---|--------|
|          |         |                    | 第1四半期       | 第2四半期  | 第3四半期  | 第4四半期  | 累計     |        |   |        |
| HS事業     | 売上高     | 23,260             | 5,761       | 5,655  | 5,736  | 5,541  | 22,695 | △2.4%  | <ul style="list-style-type: none"> <li>国内は、自動車・半導体関連を中心としたお客様の生産調整があったものの、需要は総じて堅調に推移</li> <li>海外は在庫調整等による減産の影響はあったが、基盤強化策の効果があり収益性が改善、全体として減収増益</li> </ul> |        |
|          | セグメント利益 | 1,066              | 196         | 231    | 331    | 351    | 1,110  | +44    |   |        |
| EMS事業    | 売上高     | 38,157             | 9,118       | 8,228  | 8,387  | 8,554  | 34,290 | △10.1% | <ul style="list-style-type: none"> <li>戦略拠点で新規受注立ち上げや量産開始があったものの、お客様の減産や生産調整の影響があり売上高は前年比で減少</li> <li>利益面では、各拠点における生産性改善やコスト構造見直しの成果もあり増益</li> </ul>        |        |
|          | セグメント利益 | 330                | 242         | △107   | 85     | 354    | 575    | +244   |   |        |
| PS事業     | 売上高     | 17,615             | 3,685       | 3,824  | 4,282  | 4,095  | 15,888 | △9.8%  | <ul style="list-style-type: none"> <li>国内需要は高い水準を維持したが、海外においてお客様の生産・在庫調整が発生した影響で減収</li> <li>生産効率向上や部材調達ソースの拡大等、安定した生産活動および収益確保に向けた施策を着実に実行し増益</li> </ul>    |        |
|          | セグメント利益 | 637                | 203         | 15     | 356    | 209    | 785    | +148   |   |        |
| 調整額      | セグメント利益 | △496               | △159        | △124   | △163   | △135   | △582   | —      | 当社（持株会社）に係る全社費用   |        |
| 合計       | 売上高     | 79,033             | 18,565      | 17,709 | 18,407 | 18,191 | 72,874 | △7.8%  | HS事業：ヒューマンソリューション事業<br>EMS事業：エレクトロニクスマニファクチャリングサービス事業<br>PS事業：パワーサプライ事業   |        |
|          | セグメント利益 | 1,537              | 483         | 14     | 610    | 779    | 1,888  | +350   |   |        |

## ■ 業績ハイライト (B/S)

| (単位：百万円)        | 2023年3月期<br>(2023年3月31日) | 2024年3月期<br>(2024年3月31日) | 増減     |
|-----------------|--------------------------|--------------------------|--------|
| <b>流動資産</b>     | 30,020                   | <b>26,178</b>            | △3,842 |
| <b>固定資産</b>     | 8,885                    | <b>9,784</b>             | 899    |
| 有形固定資産          | 7,089                    | <b>7,981</b>             | 891    |
| 無形固定資産          | 651                      | <b>605</b>               | △46    |
| 投資その他の資産        | 1,143                    | <b>1,197</b>             | 53     |
| <b>繰延資産</b>     | 26                       | <b>13</b>                | △13    |
| <b>資産合計</b>     | 38,932                   | <b>35,976</b>            | △2,956 |
| <b>負債合計</b>     | 36,417                   | <b>32,631</b>            | △3,786 |
| 流動負債            | 28,519                   | <b>29,219</b>            | 700    |
| 固定負債            | 7,898                    | <b>3,411</b>             | △4,486 |
| <b>純資産合計</b>    | 2,514                    | <b>3,344</b>             | 829    |
| <b>負債・純資産合計</b> | 38,932                   | <b>35,976</b>            | △2,956 |

# ■ 業績ハイライト (C/F)

| (単位：百万円)             |        | 2023年3月期 | 2024年3月期                              | 主なポイント |
|----------------------|--------|----------|---------------------------------------|--------|
| 税金等調整前当期純利益          | 1,166  | 1,526    |                                       |        |
| 減価償却費                | 1,442  | 1,423    |                                       |        |
| 運転資金の増減              | △2,590 | 3,137    | 売上債権 2,228<br>在庫 3,824<br>仕入債務 △2,915 |        |
| その他                  | △273   | △1,314   |                                       |        |
| <b>営業キャッシュ・フロー</b>   | △253   | 4,772    |                                       |        |
| 固定資産の取得・売却           | △1,632 | △1,003   | 売却収入 2<br>取得支出 △1,006                 |        |
| その他                  | 18     | △48      |                                       |        |
| <b>投資キャッシュ・フロー</b>   | △1,613 | △1,052   |                                       |        |
| <b>フリーキャッシュ・フロー</b>  | △1,867 | 3,720    |                                       |        |
| 借入金の増減               | △176   | △2,396   |                                       |        |
| 配当金支払 他              | △354   | △695     | リース債務返済 △602<br>配当金 △93               |        |
| <b>財務キャッシュ・フロー</b>   | △530   | △3,092   |                                       |        |
| <b>現金及び現金同等物期末残高</b> | 3,041  | 4,203    |                                       |        |

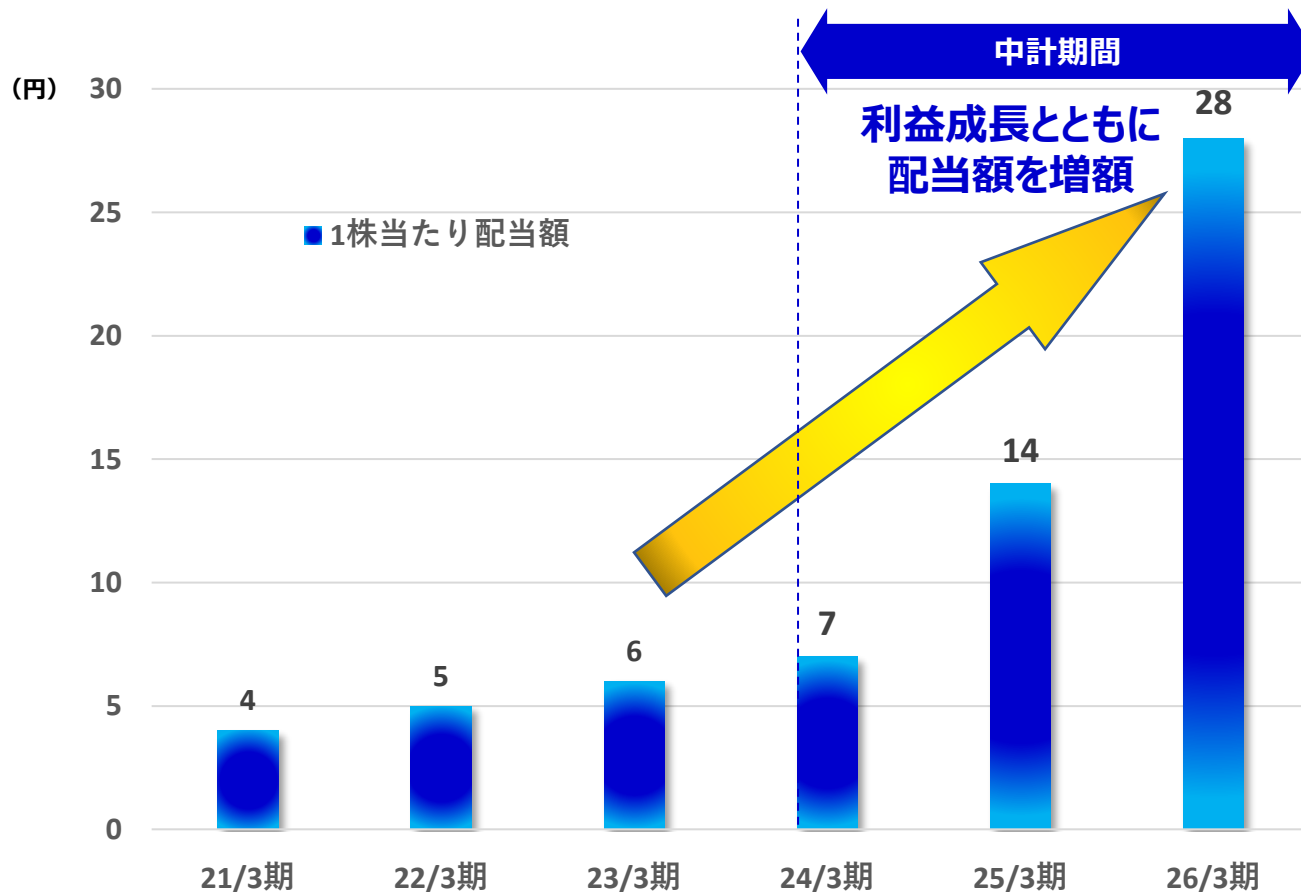
# ■ 2025年3月期 業績予想・配当予想

- 感染症拡大を経て、サプライチェーンをはじめとする市場構造が変化しており、在庫の不足・増産から一転して在庫調整・減産へ、というサイクルが、不定期に繰り返される状況が続く様相だが、当社グループ事業は、景況変化においても、確実に利益をだせる体質に転換を図っており、2025年3月期も基盤強化策を進めるとともに、今後の事業成長を生み出す戦略投資の見極めを行いながら、次の成長につながる施策を実行していく
- これらにより、25年3月期の通期連結業績は、売上高 75,000百万円、営業利益 2,100百万円、経常利益 1,900百万円、当期純利益 1,300百万円を計画
- 配当については7円増配となる、1株当たり14円の期末配当を予定

| (単位：百万円)            | 2023年3月期<br>実績 | 2024年3月期<br>実績 | 2025年3月期<br>予想 | 2024年3月期<br>実績比 |
|---------------------|----------------|----------------|----------------|-----------------|
| 売上高                 | 79,033         | 72,874         | 75,000         | 2.9%            |
| 営業利益                | 1,537          | 1,888          | 2,100          | 11.2%           |
| 経常利益                | 1,426          | 1,570          | 1,900          | 21.0%           |
| 親会社株主に帰属する<br>当期純利益 | 505            | 737            | 1,300          | 76.4%           |
| 1株当たり<br>当期純利益      | 32.52          | 47.42          | 83.64          | +36.22          |
| 1株当たり配当金<br>(期末配当)  | 6円             | 7円             | 14円            |                 |

## 本中期経営計画期間は利益成長とともに配当額を増加させ 株主の皆様への期待に応えていきます

23-25年度中期経営計画期間においては、「持続的な成長」を実現していくための基盤構築の期間と位置づけており、内部留保と成長投資にもキャッシュを振り向けながら段階的に配当金額を引き上げ、株主の皆様への還元を行っていきたくと考えております





# セグメント別事業概況

- HS（ヒューマンソリューション）事業
- EMS（エレクトロニクスマニファクチャリングサービス）事業
- PS（パワーサプライ）事業

## 基本方針

- これまで実行した構造改革施策の効果を定着させ、基盤強化と事業強化の両輪で質が伴った成長を実現する
- 当中計期間は部分最適と全体最適のバランスをとりながら強固な経営基盤を構築

## 中期重点戦略

### 【基盤強化】

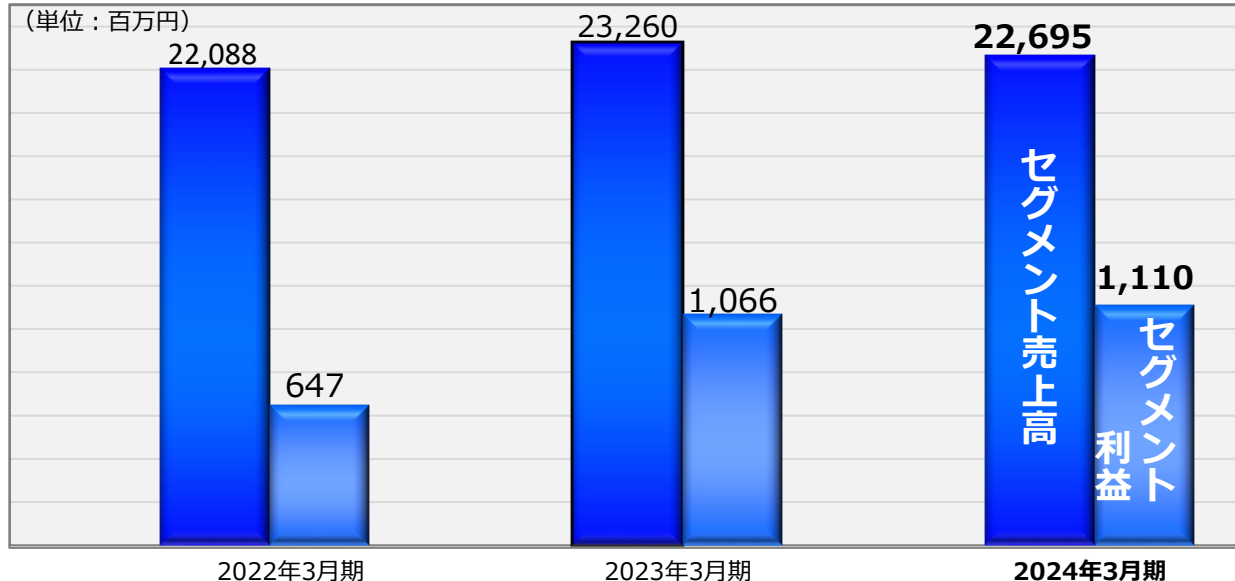
- ・多様な人材が活躍するしくみづくり
- ・HS事業のDX化  
⇒ デジタル技術・AIを活用し、事業運営の効率化を加速

### 【事業強化】

- ・お客様のニーズに即した多様な人材の確保と育成、これによるソリューションの提供（外国人材、シニアエキスパート人材他）
- ・グローバル・プラットフォーム・サービス展開  
⇒ 海外人材の採用から定着までOne-stopプラットフォームを構築

## 24年度実行施策

- 多様な人材の確保でお客様のニーズに対応
  - ・即戦力となるシニアエキスパート人材の雇用推進
  - ・多様な外国人材の活躍推進（高度エンジニア人材）
  - ・ウクライナ人材への支援ネットワーク強化、就業支援開始
- エンジニア人材に特化した「技術センター」設置、24年春稼働
- 「グローバル・プラットフォーム・サービス」事業規模拡大に向けベトナムにおいて基盤強化策を実行
  - ・ベトナム人材企業3社とアライアンスネットワークに加え様々な分野の人材採用・教育を行う日系企業と提携



# 【HS事業】外国人材の技能実習施設 「nmsテクノロジートレーニングサイト」

- 日本に入国した外国人材の早期活躍が可能となる環境を整備し、お客様の課題解決に貢献
- 研修メニューを充実させた専門施設として、常時数十名が受講可能
- 少子高齢化による労働人口の減少が深刻さを増す中、高度な技術を有する外国人材の需要は日に日に増している
- 現地で採用された外国人材は、挨拶などの基本的な研修を経て入国
- 入国後、すぐにテクノロジートレーニングサイトで研修をはじめることができる

## nmsテクノロジートレーニングサイト概要

|     |                   |
|-----|-------------------|
| 所在地 | 埼玉県熊谷市千代39        |
| 面積  | 250m <sup>2</sup> |
| 開設日 | 2024年2月9日（金）      |



nms 松本社長(中央)と外国人材で記念写真

## 主な研修メニューカテゴリー



# 【HS事業】ラオス政府と人材採用拡大に向けた パートナーシップ協定を締結

- ラオス人民民主共和国労働・社会福祉省とラオスでの人材採用と教育・生活支援の拡充を目的としたパートナーシップ協定を締結
- nms ラオスは人材派遣業ならびに人材紹介業における優良企業として日系企業で唯一「推薦状」を交付されており、日本やタイへ累計1,950名の人材送り出しを行ってきた実績が評価された

## パートナーシップ協定内容

- ・ラオス人材の日本への就労者数拡大に向けた採用支援
- ・日本語および日本文化について学習できる環境の提供
- ・来日後の生活面・就労面での支援



調印式に出席したラオス政府関係者および当社関係者

長年培った  
ラオスでの事業経験

人材育成ノウハウ

**nms**  
NIPPON MANUFACTURING SERVICE



ラオス人民民主共和国  
労働・社会福祉省



・日本への人材の  
安定確保／供給  
・ラオスの経済発展  
の源泉へ

- nmsグループが持つ日本品質のモノづくりノウハウと、ベトナムで日本への送り出し実績を持つ人材会社3社それぞれの人材採用ネットワークを掛け合わせ、技能教育の高度化を行う

## 日本の製造業が直面している課題

- ・ 製造業の人材不足
- ・ バリューチェーン再構築によるASEANへの生産分散化加速
- ・ ニーズはマニュアルワーカーからナレッジワーカーへ拡大  
(技術だけでなく技能を習得した高度人材の確保)
- ・ アジア各国の若年層を中心とした高い人材流動性

NIPPON MANUFACTURING SERVICE

### 日本品質のモノづくりノウハウ

#### グローバルサポート体制

- ・ 中国・ASEANに拠点展開
- ・ 安定した外国人材提供

#### 幅広いサービス内容

- ・ 製造派遣/製造請負/リペア事業
- ・ 外国人材への研修受託

#### エンジニアリング人材体制

- ・ エンジニア人材派遣
- ・ エンジニアリング受託

#### グループEMS事業との連携

- ・ 省力化装置と複合提案



### 3社それぞれの人材採用ネットワーク

#### ベトナム国際人材株式会社

VIET INTERNATIONAL LABOUR JOINT STOCK COMPANY

- ・ 営業拠点 ベトナム国内23拠点
- ・ 21の大学・短大と提携

#### ホアン・ロン人材派遣株式会社

HOANG LONG CMS., JSC.

- ・ 営業拠点 ベトナム国内20拠点
- ・ 12の大学・短大と提携

#### 株式会社ITM

INFORMATION TECHNOLOGY MANPOWER JOINT STOCK COMPANY

- ・ 営業拠点 ベトナム国内14拠点
- ・ 11の大学・短大と提携

- 人材の採用から育成・定着まで一貫した体制を整え、メカニカルエンジニアリングを軸に製造業の高度エンジニア人材不足に対応
- 技術革新が進む日本の製造業において、さまざまな分野で即戦力となるエンジニア人材ニーズの高まりに対応する

**技術センターの特長**

- ①メカニカルエンジニアリングを軸とした、設計・シミュレーション等の機電系・制御系エンジニア人材の採用・育成に特化
- ②お客様のニーズに即した専門的なカスタマイズ研修プログラムの実践
- ③即戦力人材の配置・定着まで幅広いサポートを展開
- ④講師陣は現場での豊富な実務経験と教育経験をもった高度エンジニアで構成
- ⑤研修生4名に対して講師1名が対応する少人数構成で、密度の濃い技術研修を実践

**nms エンジニアリング 技術センター概要**

|                       |                                     |
|-----------------------|-------------------------------------|
| 東日本技術センター<br>(新宿駅近郊)  | 所在地：東京都新宿区新宿1-6-3 新宿御苑フロント7階        |
| 西日本技術センター<br>(新大阪駅近郊) | 所在地：大阪府大阪市淀川区西宮原1-8-24 新大阪第3トイビル 3階 |
| 面積・収容人数               | 面積：80坪（東西2カ所合計）、収容人数：60名            |

## 基本方針

- 大量生産品を日本品質で、かつ、より低価格で実現する「メガEMS」と、熟成したマーケットにおける「オーダーメイド型EMS」の掛け合わせで全方位Win/Winを実現
- 当社グループ独自のEMS新概念「Engineering Manufacturing Service」でパートナー戦略を強化、持続的成長を実現



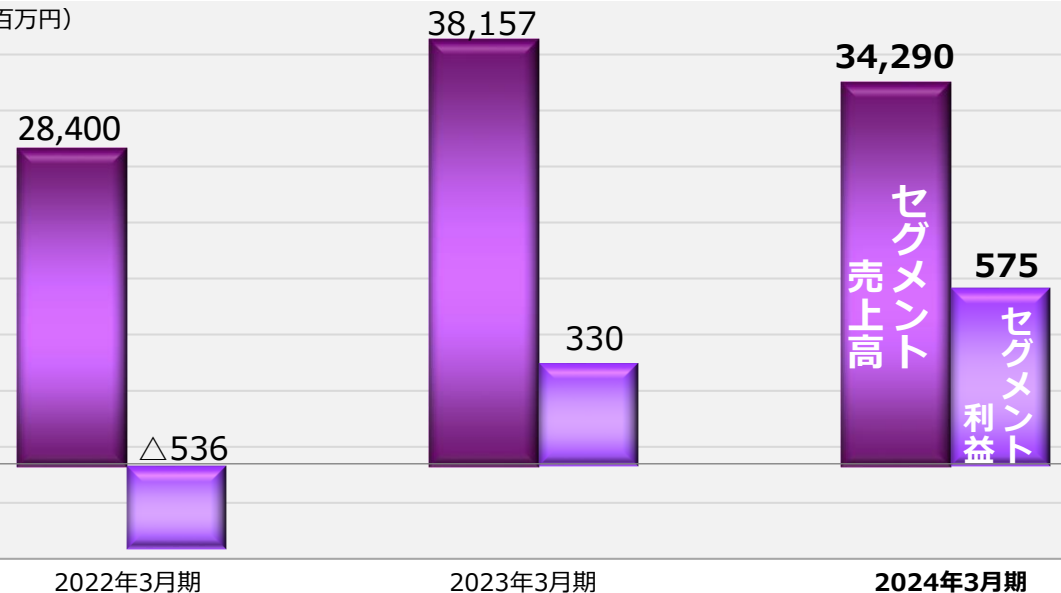
## 中期重点戦略

- マレーシア拠点のキャッシュカウ化、これによるグループ経営資源の循環機能の強化
- 中国拠点のポートフォリオ組み換え  
これによる収益性改善と持続的成長
- 戦略投資拠点であるベトナム、メキシコの本格的業績寄与  
ベトナム：プレス加工技術を武器に受注拡大  
メキシコ：基板実装+自動化で車載関連、エンジニアリングツール関連を拡大
- グローバル生産体制の機動力の要となる国内拠点の機能強化、高度化  
(営業・技術・調達・管理)

## 24年度実行施策

- 戦略投資を行ってきたベトナム拠点は、お客様のベトナム生産移管ニーズも享受し、着実に売上・利益が増加、24年度も堅調に推移する見込み、工場拡張（第3工場）や基板実装ライン新設も視野
- メキシコ拠点は受注量増加、自動化設備投入で生産性改善  
24年度から新規受注立ち上げ、生産数量増加  
25年度以降の生産能力増強の検討に入る
- グループ各拠点が持つ自動化技術をお客様ニーズにあわせグループ内で横展開、生産性向上で利益創出力改善

(単位：百万円)



## ■ 事業の主軸・方向性

【精密順送プレス加工】

ベトナムで特長を出せるプレス加工で  
顧客基盤拡大

## ■ 中計でめざす姿

新拠点のメガEMSとして必要な機能を全て取り込み、  
「Engineering Manufacturing Service」をめざした人材  
育成を実施し、トップライン成長による利益創出フェーズに転換

|      |  |
|------|--|
| 所在地  | ベトナム ヴィンフック省   |
| 稼働開始 | 2019年5月  |
| 事業内容 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・板金プレス加工</li> <li>・タップ・カシメ・洗浄等の2次加工</li> <li>・ユニットおよび完成品の組み立て（2020年より開始）</li> </ul> |



TKRベトナム外観

## 特長

板金プレス等の金属加工や二次加工、完成品組み立てを得意とし、150～400tの  
大型プレス機で最終製品の成型まで可能、今後は基板実装ライン設置も視野

## ① 総敷地面積は40,000㎡、2工場で構成

プレス工場（土地20,000㎡・建物11,000㎡）／実装組立工場（土地20,000㎡・建物20,000㎡）

## ② マレーシア拠点と連携・機能すみ分けを行い、日本や中国からベトナムへの生産移管ニーズも積極的に取り込み、機動的な生産体制を構築

③ 車載用非接触充電器などの半完成品組み立てや、家庭用テレビスタンドの金属加工なども手掛ける  
今後は基板実装ラインの新設や第3工場の建設も視野



## ■ 事業の主軸・方向性

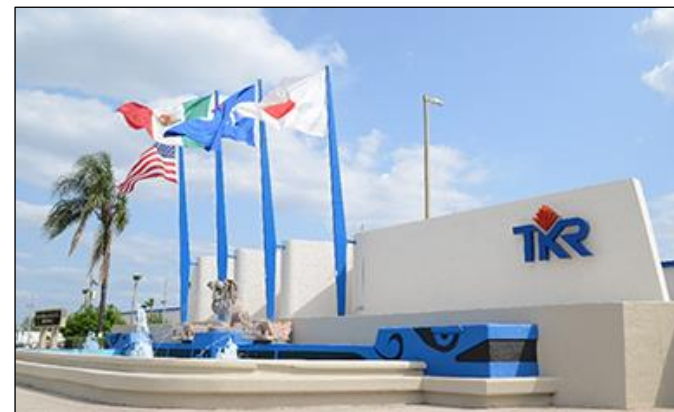
## 【基板実装】

エンジニアリングツールや車載関連の  
基板実装ビジネスを展開

## ■ 中計でめざす姿

ベトナム拠点と同様、新拠点のメガEMSとして必要な機能を全て取り込み「Engineering Manufacturing Service」をめざした人材育成を実施、トップライン成長による利益創出フェーズに転換

|      |  |
|------|--|
| 所在地  | メキシコ タウマパリス州 ヌエボ・ラレド   |
| 稼働開始 | 2019年4月  |
| 事業内容 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・電子部品の製造／修理</li> <li>・プラスチック射出成型</li> <li>・ユニット・完成品の組み立て</li> <li>・小売店向け特注什器（ディスプレイ）</li> <li>・自動車メーカー向け純正品の生産</li> <li>・治具の製作</li> <li>・自動化機器の設計・開発</li> </ul> |



TKRメキシコ外観

## 特長

メキシコ－米国－カナダの工業地帯を結ぶ最適な地理的位置に立地する製造工場

- ① 米国とメキシコの国境沿いに立地、「製造＋ロジスティクス」両面で事業メリットを享受
- ② 市場規模が大きくかつ安定した市場であるエンジニアリングツール分野、車載分野をターゲットとし事業を展開、TKRグループ各拠点の製造ノウハウを集結させ、自動化ラインの設置などを実行
- ③ 24年度は生産数量を増やししながら、自動化ラインの実効を上げ、事業効率を改善  
コロナ禍の中で投資は手控えてきたが、受注は確実に増えており、25年度以降に基板実装ライン増設も視野に入れ、基盤強化を進める

## 基本方針

- 高圧電源、マグネットロールを中心に体質強化  
ドキュメント市場でシェア拡大し、粘り抜く
- 高圧商品（電源・トランス）を切り口に産業・  
環境市場への展開を加速
- 売上成長を伴う安定的な収益体質へ転換



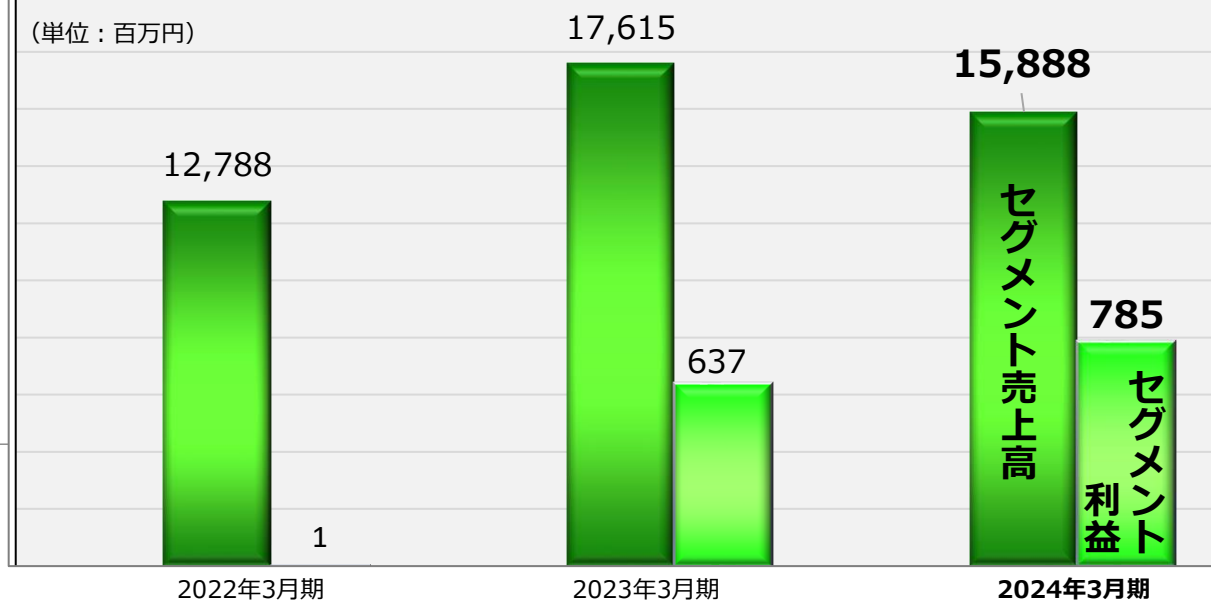
## 中期重点戦略

- 高圧電源/マグネットロール：  
ドキュメント市場でシェア拡大、体質強化
- 高圧電源/高圧トランス：  
環境市場（産業・家電分野）に展開
- 低圧電源：  
産業市場（ロボティクス・スマートファク  
トリー）のシェア拡大
- 持続的成長を実現するリソースの強化、  
企業文化の活性化

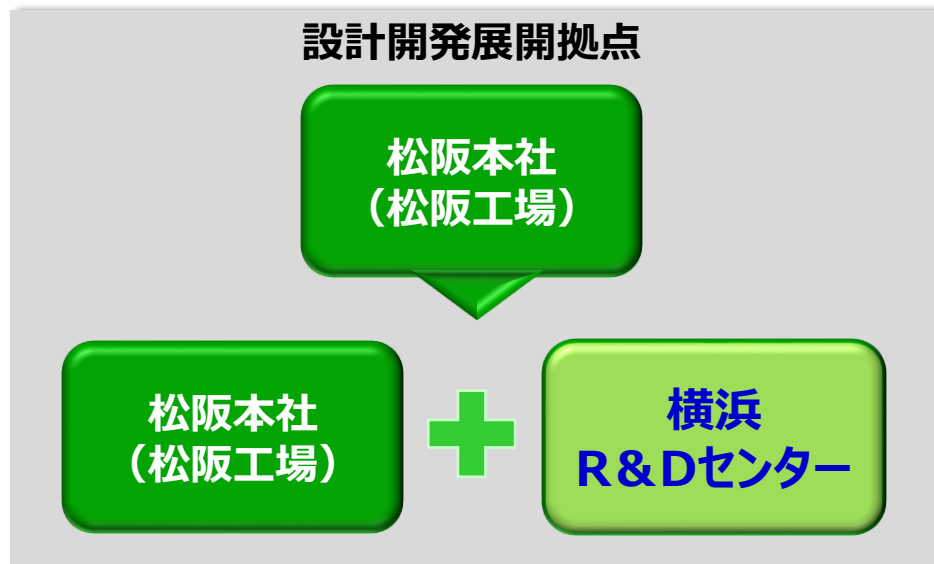
## 24年度実行施策

- 23年5月、神奈川県横浜市に「横浜R&Dセンター」を設置  
「環境衛生」「脱炭素」「電動化」をキーワードに技術開発推進
- ベトナムにおいて外部EMS企業と連携、生産委託を開始  
国内はグループ内EMS（志摩電子工業）のインフラを活用、  
日本・中国・ASEANで機動的な生産体制を確立
- 部材調達ソースの多様化や、コスト削減を継続実行、景況変動  
においても安定的に利益創出できる体質に転換

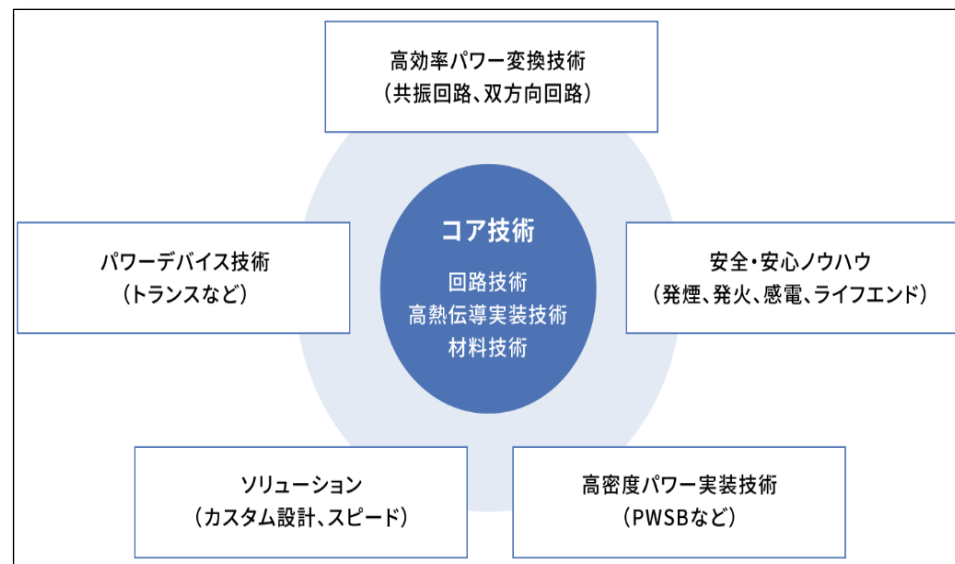
(単位：百万円)



## PSTの設計開発機能



松阪本社に加え、横浜R&Dセンターで  
関東地区でのお客様との開発連携強化



「キーデバイスの自社開発」をはじめとした  
カスタム製品を生み出すPSTの開発技術

## パワーサプライテクノロジー 横浜R&Dセンター概要

|      |   |
|------|---|
| 所在地  | 神奈川県横浜市神奈川区新浦島町1-1-32<br>Aquaria Tower Yokohama 17F |
| 拠点概要 | R&Dおよび営業機能  |

営業拠点としてもお客様のニーズ  
に即応する体制を強化し次世代を  
担う電源製品の拡販も進める

- 外部EMS企業と連携を行い日本・中国・ASEANでの機動的な電源製品生産体制を整える
- お客様の生産における市場・地域の分散化やBCPの観点からベトナムでの生産ニーズが高まっており、これに対応するもの

PSTの電源製品ノウハウ

- 電源専門メーカーの高度な技術力
- 主力製品のカスタム電源、トランス、マグネットロールなどの開発・設計から販売まで一貫対応することにより最適な電源ソリューションを提供



カトーレックのノウハウ

- 1980年にエレクトロニクス事業に参入、1993年から海外にも展開
- 国内外拠点で電子機器の設計から部品調達、プリント基板実装、完成品の組立まで一貫したサービスを提供

|         |  |
|---------|--|
| 名 称     | KATOLEC VIETNAM CORPORATION «KAV»<br>(カトーレック ベトナム工場)                       |
| 所 在 地   | Lot 41A-B, Quang Minh Industrial Zone,<br>Me Linh District, Hanoi, VIETNAM |
| 事 業 内 容 | プリント基板実装～完成品組立   |
| 本 社     | カトーレック株式会社<br>(所在地：東京都江東区枝川 2-8-7)   |



カトーレック ベトナム工場

**環境変化を好機へと転換**  
**私たちnmsホールディングスは独自のビジネスモデルで成長をめざします**



**nms**  
Holdings